

よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙顕寺

長春山 本誓寺

『よろこび』三十四

貫首 齊藤 日軌

『覚悟する』
皆さん、新年おめでとうございます。今年も喜びの一年でありますよう。

とここで、一休さんの歌に
「門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし」
門松は、正月に飾って、お祝いをするものですが、正月が来るたびに年をとり、自分の死へ一歩一歩近づくとを意味していきます。その意味で、門松は、死に向かう道の途中におかれた道標のようなものという事です。門松は、おめでたいものではあるけれども、喜んでばかりはいられないという事です。喜んでばかりでは、お釈迦様は、この死について、

「われらは、ここにあって死ぬはずのものである」と覚悟をしよう。——このことわりを他の人々は知っていない。しかし、このことわりを知る人々があれば、争いはしなくなる。」（法句経六中村元訳）とお述べになり、死を覚悟すれば、自分が正しい、人が誤っているなど些細なことに腹を立てず喧嘩しなくなるよとお教えます。



みおしえ

お正月、元日の朝年少の者から年長の者への順に皆でお屠蘇を頂きます、頂きます。
お屠蘇とは、一年間の邪気を払い長寿を願って正月に呑む縁起物のお酒です。

「屠蘇」とは悪鬼を屠り魂を蘇生させるといふ説がありすが、之は私たち自身の死と再生を意味しています。より良き永遠の生を生きたため魂をリフレッシュすることです。死を覚悟して一切の煩惱を捨て、新鮮な魂として蘇るのです。

「われらは、ここにあって死ぬはずのものであると覚悟をしよう。——このことわりを他の人々は知っていない。しかし、このことわりを知る人々があれば、争いはしなくなる。」お正月にはお屠蘇を頂いて南無妙法蓮華經と唱え心も新しい年にリフレッシュしましょう。

お屠蘇は、数種の薬草からなる屠蘇散を日本酒・みりんなどに浸して作ります。
屠蘇は、屠蘇器という酒器揃えによってだされますが、屠蘇器は、屠蘇散と日本酒・味醂を入れる銚子、屠蘇を注ぐ盃、重ねた盃をのせる盃台、これらを載せる盆からなるようです。みなさん良いお正月を迎えましょう。

心の言葉

南無妙法蓮華經と唱えて
心と身体をリフレッシュしよう

